尾道市立吉和中学校

生徒指導規程

校訓

ねばり強く

正しく

心豊かに

目指す生徒像

- 一、挨拶ができ、ことばを大切にする生徒
- 一、積極的に諸行事へ参加し、
感動できる生徒
- 一、人や物を大切にし、
人の気持ちがわかる生徒
- 一、学校や地域を愛し、
自分に誇りが持てる生徒
- 一、時間やルールを守り、
掃除を積極的に行える生徒
- 一、感謝の気持ちを行動で表現できる生徒

年 組 番

名前 _____

生徒指導規程（中学校生活の充実を図るために）

尾道市立吉和中学校

令和7年4月1日

第1章 総則

この規程は、尾道市立吉和中学校で教育を受ける生徒の人格の完成や健やかな成長を願い、義務教育が終了するまで見通しを持った指導について、共通認識、共通指導を図るものである。

《目的》

第1条

本校の学校教育目標を達成させるためのものであり、生徒が社会の一員として、ルールや決まりを守るなど規範意識を向上させ、自主自立の精神を身に付け、充実した学校生活を送る観点から、必要な事項を定めたものである。

第2条 生徒指導のポイント

(1) 自己肯定感の育成

生徒が学校生活の中で自分の存在感を味わうことができ、集団への所属感が持てるように指導する。

(2) 自律の育成

生徒が社会のルールを守りお互いをかけがえのない存在と認め合い、よりよい社会を実現するために貢献できる人間になるように指導する。

(3) 自己実現

現在および将来における自己実現を図っていくための自己指導能力（どのような行動が適切か自分で考え、判断、実行でき、さらにそのことに責任を持つことのできる力）の育成を目指す。

第2章 学校生活に関すること

《規則正しい生活について》

第1条 学校でのより良い生活習慣を付ける為に、

次の事を指導する。

(1) 三点固定（学校・家庭）

規則的な生活習慣、学習習慣の確立のために、

「起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻」の三点固定に取り組む。

第2条 登下校について、次の事を指導する。自宅を出て、自宅に帰るまでが教育活動である。

(1) 徒歩通学とする。

①決められた通学路を通り、交通ルールを守る。

②自家用車での送迎はケガ等をして

歩けない場合を除き原則禁止とする。

自家用車の送迎は、正門までとする。（生徒の安全確保の為）

③登下校時の服装は規程の服装を着用する。

④登下校中の買い食い、飲食はしないこと。

⑤登下校中は、小学校、ガレージや空き地・空き家などへの寄り道はしない。

⑥下校時刻

夏時間（入学式～市内駅伝） 17:30

冬時間（市内駅伝後～学年末試験）

17:00

春時間（学年末試験～入学式）

17:30

※部活動は下校時刻15分前には終了

《登校、遅刻、欠課、早退、外出》

第3条 学校生活で望ましい生活習慣づくりの為に、次の事を指導する。

(1) 欠席や遅刻する場合は、必ず8時15分までに保護者から学校へ連絡すること。

(2) 8時25分までに、自分の席に座り、朝の活動に向けて準備をする。

8時30分のチャイムが鳴り終わるまでに教室へ入っていない場合は、朝遅刻とする。

①遅刻した場合は、職員室へ申し出て（ホワイトボードに登校時間を書いて）から教室へ行くこと。

②理由もなく2時間目の始業に間に合わず遅刻した場合、部活への参加を認めない。

- (3) 早退時は、必ず担任の許可を得ること。職員室のホワイトボードに早退時間を書き、帰宅したら必ず学校へ連絡すること。事前にわかっている場合は、保護者が早退の理由や時間、下校方法を学校に連絡する。
- (4) 体調が思わしくない時は、保健室で1時間のみ様子を見る。回復しない場合は、原則保護者に連絡して迎えに来ていただく。
- (5) 登校後の外出はできない。忘れ物をした場合でも帰ることはできない。特別な理由がある場合は、職員室で許可を得る。
- (6) 私用で学校から電話をする場合は、所定の手続きを行い使用する。(有料10円)
- (7) 3日以上生徒に連絡が取れず、会えない日が続いた場合、速やかに関係機関と連携を行い、所在確認を行う。

《身なりについて》

第4条 いつでも高校や会社などの面接試験を受けることができるような「身なり」でいる指導をする。「服装の乱れは心の乱れ」と言われるように、身だしなみを整えることは中学校在学中のみならず、将来社会人になってからも求められるマナーである。

- (1) 頭髮について、学習活動や運動等の妨げにならない清潔かつ自然な髪型とするよう次のように指導する。
- ① 前髪は目にかからない長さにする。目にかかる場合はピンでとめる。
- ② 後ろの髪が肩と肩を結ぶラインより長い場合は、一つまたは二つにくくる。前から見えない高さでまとめる。横で一つにくくる、編み込み、三つ編み等は不可。(くくる場合は、細いゴムで黒、紺、茶で、いずれも無地で飾りのないもの)
- ④ 不自然な髪型(極端なツーブロック、パーマ、

剃込み、ライン、一部を極端に伸ばしたり、切ったり、バランスのとれない髪型)にしない。

- ⑤ 染色、脱色、付け毛をしない。
- ⑥ 香水や整髪料は付けない。
- ⑦ ピンを付けてもよいが、次の規定を守る事。
- 本数は5本まで
- 長さは約5cmまで
- 色は黒で飾りなし。
- ⑧ 保健上の都合で上記の規定にできない場合は、保護者を通して学校の許可を得る。
- ⑨ 頭髪が規程を守られていない場合は、家庭で直し、再登校をするか、期限を決めて直す、又は別室での指導とする。

(2) 服装について、次の事を指導する。

校内外の学習活動および登下校の際は、学校が定める制服又は体操服を着用する。

【学校が定める服装】

- ・ネーム入りポロシャツ
- ・日被連マーク入りズボン
- ・ベルト(黒・茶)派手な模様は不可
- ・黒詰め襟学生服(日被連マーク入り)
- ・日被連マーク入りズボン
- ・白(紺)のセーラー服
- ・紺(白)のネクタイ
- ・スカート
- ・名札

- ①ソックスは白。マークはワンポイント。場所は問わない。くるぶしが見えるもの、ルーズソックスは不可。
- ②靴は学校規定のものでかかとを踏まない。
- ③シャツはズボン、スカートの中に入れる。
- ④防寒着は学校規定のものまたは部活で使用するもの。
- ⑤防寒着、手袋、マフラーは冬季に登下校の際使用してもよい。校舎内では着用しない。
- ⑥フード付きトレーナー等は許可しない。
- ⑦制服の変形は認めない。
- ⑧ズボンをずらしてはかない。(腰パン不可)
- ⑨スカートの丈は膝が隠れる程度とする。

- ⑩ネクタイは、肩口から出さない。
- ⑪防寒着用のストッキング（肌色）、またはタイツ、レギンス、スパッツ（黒のみ）の着用を許可する。ただし、すべて黒無地のみ。タイツは80デニール以上のものを使用すること。靴下は必ず履くこと。（タイツの場合は、タイツの上から靴下を履く）
- ⑫防寒着としてハイネックシャツを認める。
白・黒・紺（タートルネックシャツは不可）
ただし、暑くて上着を脱ぐ場合は半袖体操服とする。
- ⑬移行期間中、冬服で途中暑くて上着を脱ぐ場合は、ポロシャツもしくは半袖体操服。（シャツは必ずズボン・スカートの中に入れること）
- ⑭体育の時間（外での活動に限る）に軍手の着用を許可する。ただし、授業以外で不適切な使い方をした場合は、使用を制限する。
- ⑮白（紺）セーラー服の中に着るものは、白・黒・紺。ただし、暑くてセーラー服を脱ぐ場合は、半袖体操服とする。
- (3) 化粧、装飾、装身具を付けない。
- ①口紅、マスカラ、アイプチ等の化粧をしない。
- ②眉毛はそり落とさない。ライン等を入れない。
- ③マニキュア等の爪や身体への装飾をしない。
- ④ピアス、指輪、ネックレス、ブレスレット、ミサンガ、カラーコンタクト等の装身具は付けない。
- ⑤ハンドクリーム、リップクリーム、制汗剤、汗ふきシート等は無香料のものとする。
- (4) 本校指定の通学靴で登校する。サブバックに校章入りのナップサックを使用する。
- (5) 通学靴、上履き、体育館シューズは学校規定のものを使用する。
- ①必ず記名し、落書きはしない。
- ②体育館シューズは、体育館のフロアのみで使用し、通路等での使用は禁止する。
- (6) 体操服は、体育の授業や指示のあった時に着

用する。

- ①体育が終わったら着替える。
（6校時が体育の場合は着替えなくてもよい）
- ②吉中Tシャツは部活動の時着用する。
- ③通常の教室授業は制服で受ける。

《持ち物》

第5条 持ち物について、次の事を指導する。

- (1) 持ち物には名前を記入し、自分で責任をもって保管する。
- (2) 不必要な金銭や貴重品は持ってこない。持って来た場合は、登校後担任に預ける。金銭の貸し借りは絶対にしない。
- (3) 携帯電話を校内への持ち込みを禁止する。
使用しているいないに関わらず、所持を見つけた場合にはその場で預かり、保護者に来校していただいた上で返却し、指導する。
携帯電話に関しては、本校でもメールで相手を誹謗中傷したり、ブログなどへの安易な書き込みが原因でトラブルになる事があった。
一人一人が自己実現する為には、落ち着いた環境で毎日の生活を送る事が必要である。携帯電話を所持する場合は、学校へ持ち込まないとともに、各家庭にも「わが家のルール」づくりをお願いする。
- (4) 学習に不必要物（ゲーム機、音響機器、菓子、遊具、漫画本等）の校内への持ち込みは禁止する。使用しているいないに関わらず、所持を見つけた場合にはその場で預かり、保護者に来校していただいた上で返却し、指導する。
- (5) 危険物の持ち込みを禁止する。
- ①不要な刃物類（カッターナイフ、はさみ等）
- ②火器類（ライター、マッチ等）

第6条 校内生活で次の事を指導する。

- (1) 授業
- ①時間を守る。

- ②授業時のあいさつは、机の周り、服装を整え、語先後礼の原則で礼儀正しくあいさつをする。
- ③身のまわりの整理整頓を済ませ、授業に臨む。
- ④授業中は先生の指示に従い、私語や手悪さなどしない。
- ⑤提出物は期限内に必ず出す。
- ⑥宿題はその日の内にやり切る。
- ⑦私用でのコピー機の利用は認めない。
- ⑧授業中に居眠りをしない。

(2) 試験 (テスト)

- ①1学期中間と期末、2学期中間と期末、3学期学年末の定期試験、休み明けテストや小テストを行う。
- ②試験やテスト等で不正行為をしない。
(カンニング、監督者の指示に従わないなど)
- ③不正行為があった場合は、指導を行う。また、その教科の得点が0点となる。
- ④テスト時間に遅刻したときは、その時間の教科のテストを受けることができない。
- ⑤試験やテストは全員が必ず受ける。
- ⑥出席停止の場合は、別日に試験を行う。
- ⑦欠席した場合は、試験終了後、3日以内に受ける。ただし、点数については得点の90%で成績を付ける。
- ⑧試験やテストの返却は、欠席者がいる場合は、3日以内は返却しない。

(3) 校舎・校具の使用について

- ①昼休憩にボールの使用をする時は、ボールを使用し、代表者が職員室に借りに来て使用后、元の場所に返却する。
- ②器物が破損した場合は、すぐに最寄りの先生に届け、けがのないように後始末をし、必ず報告する。
- ③不注意や故意と認められた破損は本人が弁償する事とする。
- ④校舎や物を壊したり(器物破損)、危険の伴う遊びをしない。
- ⑤サッカーゴールにぶら下がらない。

- ⑥不法侵入、屋上や近くの山に上がったりしない。

(4) 昼食

- ①昼食は全員、自分の教室でとる。
- ②原則、デリバリー給食を注文するか、弁当を持ってくる。やむをえず、買う場合はパン・おにぎりに限る。
- ③水分は各自、水かお茶を水筒に入れて持参する(ペットボトルを利用する場合はタオルに包むか、ケースに入れて持ってくる。)
- ④昼食等で持ってきたものは、必ず、自分で持って帰る。
- ⑤13:00までは教室からは出ない。
- ⑥弁当を届けてもらう場合は、必ず、職員室まで持ってきてもらう。
- ⑦デザートは弁当に入る大きさのみとする。

(5) 掃除

- ①時間いっぱい掃除をする。
- ②身の回りはいつも整理整頓する。
- ③掃除後は、班員がそろって担当職員のチェックを受ける。

(6) 教育相談

- ①生徒、保護者は相談したい事がある場合、スクールカウンセラーを利用できる。

(7) 届け出

- ①欠席、遅刻する場合は、8:15までに連絡する。
- ②早退する事が事前にわかっている場合、担任に連絡する。
- ③JRで100km以上の旅行は割引証が発行できる。早めに申し込むこと。
- ④学校施設や校具、窓ガラス等を破損した場合。

第3章 校外での生活について

この章は、保護者責任の観点から、その指導内容も記載する。

この章の内容は、学校・家庭・関係機関と連携

を取り指導する。同一指導を繰り返す生徒の場合、特別な指導を行う。

第7条 校外での生活について指導する。

- ①刃物、鈍器、火薬類、空気銃等の有害玩具を持つての遊びや、人の迷惑のかかる遊びをしてはいけない。(銃刀法違反等に触法する)
- ②許可無く小学校、田畑、森林、その他立入禁止区域、空き家、空き地などに立ち入ってはいけない。(不法侵入で触法する)
- ③交通法規・交通マナーをよく守り、事故のないように注意する。特に自転車の二人乗り、蛇行、並進、無灯火、片手運転など法に反する運転はしてはいけない。(平成19年度道路交通法改正により補導・罰則の対象となる)
- ④遊泳禁止区域では、絶対に泳がない。
→ 吉和地区での遊泳は禁止
- ⑤映画館、スポーツ施設、カラオケボックス、飲食店、ゲームセンターなどは原則、保護者同伴でなければ行ってはいけない。
- ⑥広島県青少年育成条例により、娯楽施設の利用にあたっては、保護者同伴の場合でも夜間は利用しない。
- ⑦特別な場合を除き、夜間外出はしてはいけない。(広島県青少年育成条例により23時以降の外出は補導の対象となる)
- ⑧保護者は酒やタバコ類を生徒に購入させたり、飲酒、喫煙をさせない。
- ⑨振替休日等で、小学校の授業日に小学校へ行かない。
- ⑩知らない人に声をかけられても、絶対について行かない。
不審者に付きまといられる状況の時は直ぐに警察や近くの人に助けを呼び、家の人や学校に報告する。
- ⑪知らない人に、友達の住所、電話番号等の個人情報をお教えしない。
- ⑫ストップ9 夜9時以降の携帯電話(スマートフォン)の使用を控える。
- ⑬外泊は原則、禁止とする。

第4章 特別な指導に関して

「社会で許されない事は、学校でも許されない。学校で許されない事は、社会でも許されない。」との認識に基づき、生徒が校内及び校外で問題行動を起こした場合には反省させ、よりよい学校生活を送る為に指導する。

第8条 問題行動に対し、教育上必要と認められた場合は、特別な指導を行う。指導にあたっては、発達段階や常習性を配慮する。

- (1) 次のような問題行動があった場合には、触法行為であり警察等の関係機関と連携をする。(保護者の方には来校していただく。生徒は当面の間は特別な指導を行う。)

- 暴力行為
- 故意の器物損壊(落書き、花壇へのいたずらを含む)
- いじめ
- SNS・メール等インターネットを用いた誹謗中傷
- 喫煙・飲酒・窃盗(万引き)
- 占有離脱物横領
- 交通違反
- 薬物乱用
- 不健全娯楽
- 定期券等不正使用
- 性に関する問題行動
- 火遊び
- 金品持出・金品強要(恐喝)
- その他、学校が教育上指導に必要と判断した行為
※一緒にいた場合も指導の対象になる。

(2) 学校生活において、他人に迷惑をかける行為。

- ①授業妨害(先生の指示に従わない場合)
- ②授業エスケープ
- ③指導無視、暴言
- ④試験等における不正行為
- ⑤その他、学校が、教育上指導が必要と判断した行為

(3) 学校の規則を違反した場合。

- ①服装頭髪違反が繰り返される場合
- ②不要物を持ち込み（危険物等）
- ③故意による器物破損
- ④登下校における交通違反
- ⑤その他、学校が教育上指導必要と判断した行為。

第9条 特別な指導のうち、反省指導等は、次の通りとする。

(1) 学校反省指導

学校において特別な指導部屋(別室・職員室等)で反省指導を行う。

(2) 方法

- ①特別な指導部屋において、自分を見つめ直す事に重点を置き、反省する事をさせる。
- ②授業カリキュラムを個別に設定し、教科学習や自己を見つめる学習を行う。
- ③スクールカウンセラー等の教育相談と反省指導を複合した指導を行う。
- ④1日のノルマを決め、やり切らせる。
- ⑤長期休業に入り、特別な指導が残っている場合、次学期に持ちこさず、長期休業中にやり切らせる。

(3) 期間

- ①問題行動や常習性により、期間に違いがある。
- ②数時間から半日・1日～3日間程度等

第10条 特別な指導は、生徒が自ら起こした問題行動を反省し、よりよい学校生活を送り、人格の形成を行うためのものである。

- ①事実確認を行い、指導記録を残す。
- ②法令・法規に違反する行為を繰り返す場合は、関係機関と連携をとる。
- ③再発防止の為、具体的な約束や展望を持たせる。

第11条 生徒を対象とする全校集会や保護者を対象とする入学説明会、PTA総会等で説明し、生徒指導規定の周知に取り組む。